

3M、2012年第1四半期の業績を発表 第1四半期の売上高は75億ドル、1株当たり利益は1.59ドル

当資料は、3M社(本社:米国ミネソタ州、NYSE:MMM)が2012年4月24日(現地時間)に発表した報道資料を和訳したものです。

3Mの2012年第1四半期の売上高は、対前年比2.4%増で過去最高の75億ドル、1株当たり利益は前年同期から6.7%増加して1.59ドルでした。第1四半期の営業利益率は21.8%でした。

第1四半期の買収を除く既存ビジネスの現地通貨での売上高は1.8%増加しました。また、買収による売上高の増加は1.5%、外国為替相場変動による売上高への影響は0.9%の減少でした。

ビジネス部門別の売上高は、「工業用及び輸送機器」で8.6%、「セーフティ、セキュリティ及びプロテクションサービス」で5.5%、「コンシューマー及びオフィス」で4.3%、「ヘルスケア」で2.0%増加しました。「電気及び通信」は3.4%、「ディスプレイ及びグラフィックス」は11.8%減少しました。両部門ともに売上高の減少は、家電市場の低迷によるものです。地域別の売上高は、中南米・カナダで8.4%、米国で6.3%、欧州で0.1%増加しましたが、アジア太平洋地区では1.9%減少しました。

第1四半期の純利益は前年比4.0%増加して11億ドルを超え、1株当たり利益は前年同期比6.7%増加して1.59ドルでした。1株当たり利益には、早期退職プログラムやリストラクチャリングの実施費用である4セントが含まれています。2012年第1四半期の営業利益率は21.8%で、5つのビジネス部門で20%を超え、フリーキャッシュフローは5億6,700万ドルでした。

インゲ・G. チューリン社長兼最高経営責任者は次のように述べています。

「第1四半期は過去最高の売上高と高い1株当たり利益を達成し、2012年の非常に好調なスタートを切ることができました。世界中の社員が厳しい環境の中で、成長を目指して素晴らしい成果を上げました」。

また、チューリンは今後の展望について、次のように話しています。

「イノベーションや商品化、製造部門への投資を継続するために、業務の効率化を引き続き推進します。3Mのあらゆる側面において改善を進め、将来にわたって質の高い結果を生み続ける当社の能力に、私は強い自信を持っています」。

3Mは2012年度通期の業績予想のうち、1株当たり利益を、前回予想の6.25~6.50ドルから6.35~6.50ドルに更新しました。なお、買収を除いた既存ビジネスの売上高の増加は2~5%、2012年の営業利益率は21.0~22.5%と前回の予想から変更していません。

第1四半期のビジネス部門別の業績

工業用及び輸送機器

- 売上高は、買収による3.1%増加分を含め8.6%増の27億ドルでした。外国為替相場変動の影響による売上高の減少は1.2%でした。
- 広範な部門で売上高は増加し、航空機マーケット、研磨材、自動車OEMマーケットで2桁台の増加を達成しました。

- 地域では、売上高は世界の全地域で増加し、米国では 2 桁台の増加を達成しました。
- 営業利益は 16.2%増の 6 億ドル、営業利益率は 22.5%でした。

ヘルスケア

- 売上高は 2.0%増の 13 億ドルでした。外国為替相場変動の影響による売上高の減少は 1.1%でした。
- 大部分の事業部門で売上高は増加し、ヘルス・インフォメーション・システムズでは 2 桁台の増加を達成しました。ドラッグ・デリバリー・システム事業の売上高は前年比で減少しました。
- 地域では、アジア太平洋地区、中南米・カナダ、米国で売上高は増加し、欧州では減少しました。
- 営業利益は 9.0%増の 4 億 200 万ドル、営業利益率は 31.4%でした。

コンシューマー及びオフィス

- 売上高は、最近の GPI 社の買収による 3.0%増加分を含め 4.3%増の 10 億ドルでした。外国為替相場変動の影響による売上高の減少は 0.8%でした。
- DIY は、既存ビジネスでの売上増に加え買収による売上の増加も加わり、2 桁台の売上高増加を達成しました。
- 地域では、売上高は欧州で 2 桁台の増加(GPI 社の買収による)を達成しました。米国では前年比でわずかに減少しました。
- 営業利益は 8.8%増の 2 億 3,400 万ドル、営業利益率は 22.4%でした。

セーフティ、セキュリティ及びプロテクションサービス

- 売上高は 5.5%増の 10 億ドルでした。外国為替相場変動の影響による売上高の減少は 1.3%でした。
- 屋根用砂粒とパーソナルセーフティの売上高は大幅に増加しました。セキュリティシステムズの売上高は前年比で減少しました。
- 地域では、売上高は、中南米・カナダと米国で 2 桁台の増加を達成しました。欧州では前年比で減少しました。
- 営業利益は 16.3%増の 2 億 3,100 万ドル、営業利益率は 23.6%でした。

ディスプレイ及びグラフィックス

- 売上高は 11.8%減の 8 億 3,200 万ドルでした。外国為替相場変動の影響による売上高の減少は 0.4%でした。
- オプティカルシステムズの売上高は、液晶テレビ用フィルムの販売量の低迷により、28%減少しました。
- アーキテクチュラルマーケットとコマーシャルグラフィックスの売上高は増加しました。交通安全システム事業部の売上高はわずかに減少しました。
- 地域では、売上高は欧州での軟調な経済情勢のため減少し、アジア太平洋地区でも主としてエレクトロニクス関連で減少しました。
- 営業利益は 29.2%減の 1 億 6,300 万ドル、営業利益率は 19.6%でした。

電気及び通信

- 売上高は 3.4%減の 8 億 800 万ドルでした。外国為替相場変動の影響による売上高の減少は 0.3%でした。
- 家電関連製品の売上高は、顧客の生産量減少のため、前年比で減少となりました。
- 地域では、売上高はアジア太平洋地区と欧州で前年比で減少しましたが、米国と中南米・カナダでの増加により売上高の減少は一部緩和されました。
- 営業利益は 5.7%減の 1 億 6,800 万ドル、営業利益率は 20.8%でした。

将来予想に関する記述

このニュースリリースは、相当のリスクおよび不確実性を伴う3Mの財務上の実績および予測ならびに景気見通しについて、将来を予想した記述を含みます。将来の業績、事業計画、景気見通しを予想した記述には、「予測する」「予想する」「予期する」「期待する」「見積る」「意図する」「計画する」「信じる」「目指す」「であろう」などの語句を用いています。このような将来予想に関する記述から実績を大きく逸脱させる要因としては、以下の各項が挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) 世界経済や資本市場の状況など、3Mにとって不可抗力な要因(3Mの経営あるいはそのお客様およびサプライヤーの経営に影響をおよぼす自然およびその他の災害を含む)
- (2) 3Mの信用格付けおよび資本コスト
- (3) 競争条件およびお客様の嗜好
- (4) 外国為替レートおよびその変動
- (5) 新製品の提供時期および市場での受容
- (6) 部品、合成物、原材料、エネルギー(石油や天然ガスならびにその派生物を含む)の払底、需要増または供給停止(自然およびその他の災害、ならびに他の事故により引き起こされたものを含む)による調達不能または価格高騰
- (7) 買収、戦略的提携、企業分割、または経営資源の効率化やその他の事業戦略から生じた特殊な事情の影響あるいは組織再編の影響
- (8) 生産性向上の目標未達
- (9) 機密保持違反および3Mの情報技術インフラに対するその他の侵害
- (10) 訴訟手続き(2011年度12月期における3Mの10-K年次報告書に記載の訴訟および法的手続きで生じる重大な展開を含む)

前述の想定または要因の変化から、将来予想に関する記述と大幅に異なる結果が生じる可能性があります。これらの要因についての詳細は、年次報告書の第1部第1項『将来の実績に影響を与え得る要因に関する注意書き』および第1A項『リスク要因』に記載されています。

このニュースリリースに含まれる情報は、ここに記載された日付におけるものです。3Mは、新たな情報の出現あるいは将来の状況または展開にかかわらず、このニュースリリースに含まれる将来予想に関する記述を更新する義務を負いません。

3M、は3M社の商標です。